

新宮山彦ぐるーぷ第1983回

大日岳・大日如来座像・コンクリート補強石組み台座に安置

◇実施日：2018年7月22日(日) 快晴

◇参加者：川島 功、児嶋道夫、豊嶋 寛、橋本 梓、濱野兼吉

生熊千満子、高田潤一、竹中卓治、高階美根子、瀧本昭太郎、斉藤和美、梶野照雄、志岐 敬。 13名。

今回は、先週(5/14)コンクリート補強の石組み台座が完成し、石組み台座に大日如来座像を据え調整し、青銅製・大日如来座像と台座のビス止め、大日如来座像のヒビ入り箇所及び転倒で外れた宝冠欠落箇所の接続・補修を行い、コンクリート補強石組み台座へ再安置する運びになった。

少しでも暑さを避け、涼しいうちに登る事にして通常より30分早い7時半に前鬼林道ゲート集合とした。

新宮組は、川島車(児嶋・濱野・生熊同乗)と高田車(豊嶋・橋本)で6時前に出発する。出発前に志岐・梶野氏は、遅れるので先行出発して下さいと連絡がある。

前鬼林道のトンネル内で前鬼口迄歩行の修験装束一行とすれ違う。前鬼林道ゲートに到着すると瀧本車(斉藤)、竹中車(高階)が既着している、小仲坊に事前連絡の上、了解を得て前鬼小仲坊に乘入れると、宿泊所に布団が干してある。昨夜、京都・醍醐寺三宝院一行が泊まられたと聞き、先程すれ違った修験者の方達だ。五鬼助さんに、本日大日如来座像を安置する旨を伝えると「暑い中ご苦労さん、沖崎さんは・・・」と、「右の歯噛み合わせ箇所が痛くて口蓋外科で診察し欠席」を伝えると、「わしも腫れて歯科から口蓋外科で診察受ける」とのこと。

荷揚げする物は無いが、山頂からセメント用具や雨水貯槽等を降ろす荷があるので背負い子のある方は持って登って貰う。

8時前に前鬼小仲坊を出発する。屋敷跡の杉大木から、支谷を

渡り樹林帯の木陰の中を辿るが、たちまち汗が噴出し、最初の石柱道標の地点で小休止する。熱中症にならない様に飲料水飲むと共に生熊さんから冷えたミニトマトの差し入れがある。少し風があると涼しく感じる。



小仲坊到着！



小仲坊出発



石柱道標地点で小休止

木段300段手前の支谷横で小休止すると、谷風があり涼しくてホットする。二つ岩に9時半前に到着し約15分休憩する。尚、高田氏は此処で下山された。



支谷傍で小休止



二つ岩で休憩



太古ノ辻に登るが風が弱く、陽ざしを避け、少し登った木陰で

休憩すると生熊さんから再び冷えた甘夏柑、豊嶋さんからミニマトが差し入れされ喉を潤すと共に汗で濡れたTシャツを脱いで絞ると汗水がしたり落ちた。

大日岳へ登る西側の樹林帯の登山道には、西風があり涼しいが、大日岳への急登は陽が当り暑くあえぎながら11時過ぎに大日岳に登頂する。

早速、朝食の早い方も居られ、狭い山頂で各自適当な場所を捜して昼食。昼食を略終える頃に志岐・梶野氏が到着。



太古ノ辻上の木陰で休憩



大日岳で昼食



志岐・梶野さん到着

大日如来座像転倒防止のザイルを解き、大日如来座像(背丈124cm、光背横幅76cm、重さ約45kg)を吊り揚げるロープを児嶋氏が細工し、5人でコンクリート台座上に運び、頭上の単管パイプのレバーブロック2個で吊り、コンクリート補強石組み台座に青銅製台座が据えられるまで吊上げる。

吊上げた時点で、青銅製台座(高さ64cm、下部台座径約83cm、重さ約25kg)をコンクリート補強石組み台座に「大阪佛立會」の刻印が正面・真東に向くように据える

水平器で水平を確かめると、後側と左横が僅かに低い調整が必要がないと判断した。



転倒防止ロープを外す



座像を運びレバーブロックで座像を吊る



レバーブロックで座像を吊り上げ



青銅台座を正面に



青銅台座の中のコンクリート天板上に「石組み撤去時に発掘した古銭(寛永通宝)等5枚と現在の硬貨及び「由緒併願文と大日如来修復参加者名簿」(文末に掲載)を壺に入れて、蓋を接着剤で接着して納め置いた。

吊上げた大日如来座像はレバーブロックを操作して降ろして青銅台座に正面が東に向くように嵌め込む。

児嶋、梶野氏は、6箇所穴を開け、タップでネジを切り径5mmビスで止める細工をされる。



ヒビ入り箇所の補修



座像と台座にネジ穴切り



座像と台座をネジ止め

梶野氏は、仏像のヒビ入り箇所をコーキング剤で詰め接着し、残ったコーキング剤を青銅台座とコンクリート天板台座の隙間にもコーキング剤を詰められた。台座とコンクリート天板の接着と雨水侵入防止。

この間に手の空いた方は、雨水貯水容器と用具類、セメント(約10kg)の後片付けと各自背負い子、ザックに入れ担ぎ降ろす準備をして頂く、



宝冠欠落箇所は針金とコーキング剤で接続補修

転倒で外れた宝冠の欠落箇所は、針金とコーキング剤で接続・

接着し、大日如来座像を略元の状態に修復して大日如来座像を再安置した。

参加者全員で「懺悔文・開経偈、般若心経・ご真言(大日如来・神変大菩薩・不動明王)」の勤行を唱え無事安置を終えた。



安置座像に勤行



本日の参加者



安置を終えた下山前

帰路は、登りよりも重い荷を背負って下山する。太古ノ辻鞍部には、西風がかなり強く吹き疲れた体には本当に心地良く、ずつと此処に留まりたい気持ちになる。二つ岩、石柱道標地点で小休止し、16時前に汗びっしょりになって小仲坊に下山。



太古ノ辻付近・木陰にて休憩



二つ岩で小休止



五鬼助さんのご好意により、冷たい清涼飲料・ジュース等の接待を受け、猛暑の中で無事大日如来像を安置した達成感を感じる。五鬼助さんには、由緒併願文と修復参加者名簿を手渡した。



石柱道標で最後の小休止

小仲坊の接待を受ける

五鬼助さんご夫妻と

最後に、この大日如来座像は、強力・岡田雅行が大正13年夏に一人で釈迦ヶ岳・釈迦如来立像、椽の鼻・蔵王権現と一緒に担ぎ上げられ、大正15年(昭和元年)6月に設置完成されたもので、今年で93年経過し、今回の改修修復による再安置によって大日如来座像は、少なくとも半世紀以上は維持されることを願っています。

又、今回の修復改修安置にあたり、5/20に雨水を貯める容器設置と砂袋荷揚げ。6/01には大日如来像を吊る単管パイプ荷揚げと雨水貯まり状況確認。6/17には砂袋荷揚げ。7/01、セメント荷揚げ(深仙宿)と砂利荷揚げ(大日岳)。7/10には大日岳にセメント荷揚げ。7/14～15には、セメント荷揚げと石組みのコンクリート補強台座を水平に仕上。本日迄、行事日数8日・延80名の参加者並びに炉端山友会及び太尾登山口から千丈平へ砂袋デポして下さった約60名強の方々の協力により、大日如来座像が再安置する事が出来ました。御協力して下さいました皆様方には、心より御礼を申し上げます。

行動タイム

7:35前鬼・小仲坊7:50→8:20石柱道標標道→9:20一〇岩9:35→10:25太古ノ辻10:40→11:05大日岳13:30→13:45太古ノ辻14:00→14:35一〇岩14:50→15:50前鬼・小仲坊18:10解散。
梶野、志岐・小仲坊8:20→一〇岩→11:00太古ノ辻→11:40大日岳。

(記：川島、写真：梶野。瀧本・川島)

由緒併願文

大峯大日岳大日如来像は大正十五年六月に安置されたるものであるが長年の風雨等により昨年秋に倒壊し以て新宮山彦ぐるふ前鬼小仲坊相計り茲に土台基礎の修復を執行する省るに本像は前鬼小仲坊と森本坊が施主大阪仏立会 強力岡田雅行に働きかけて建立したもので大阪大谷秀一氏がその製作の任にあたりた願わくば大峯修験道大峯奥駈道を鎮護し給い善願者新宮山彦ぐるふ前鬼小仲坊の息災長久を護り奥駈行者と修復作業参加者を守護し給はん事を。

平成三十年七月吉日

修復執行者

新宮山彦ぐるふ代巻 澁川島 功
前鬼小仲坊住職 五鬼助 義之

大峯大日岳大日如來像修復参加者協賛者

(新庄市)

河崎 吉信

河崎 直史

濱野 兼吉

橋本 博

大江 加子子

畑村 清子

大谷 展郷

藤村 真理

豊島 寛

(那智勝浦町)

生熊 敏男

生熊 千崎子

(大北町)

高田 潤一

(和歌市)

藤本 昭太郎

齊藤 初美

柳端 山友会

(徳島市)

川島 功

上村 洋司

上村 初美

(熊野市)

山川 治雄

岩本 信行

中村 佳文

中野 益男

松田 博行

(長門市)

竹中 卓治

(松平谷町)

樋口 義也

高階 美根子

(彦根市)

湯川 一郎

(大阪府)

横野 照雄

三井 幹雄

野崎 肇

今中 三恵子

菅原 洋

(奈良県)

乾 克己

村吉 光夫

志岐 敬

(広島市)

椎木 寛

砂上げ協力者一同

朝文製筆 堀 佳子

和紙提供 ツツイ文雄

金一封 野原 静夫